

# のんびり

07 non-biri  
2013 Winter



ユタカな国へ  
びあきた  
ART PAVILION FOR  
TAKE FREE

# 大仙市強首



まるまる秋田のハツケヨイ!

大仙市強首の、すつくと伸びた樅の木が印象的な「樅峰苑」が今回の舞台。国の有形文化財にもなっている温泉宿です。そこに集まったのが、秋田の「丸い」ものたち。

丸い露天風呂をぐるりと囲む、丸い頭のこけしと、大きな西明寺栗。

その向こう側に構えるのは、丸いキャンバスに鉄湯画のように描かれた秋田の風景。うつつら雪化粧をした鳥海山からは、収穫の喜びが爆発！ 新米や丸いおむすびが飛び出し、日本海からは、きりたんぼが顔を出す……。これは、この撮影のために秋田公立美術大学の学生2人が描き上げた大作なんです！

そこを決戦の場にと現われたのが「光頭盆」のみなさん。頭髮の少ない方々が「頭の輝きで世の中を明るくしよう」と始めた会で、その輝きを競い合う「光頭相撲」が恒例となっていますが、その取り組みの一つ「吸盤綱引き」をなんと、この温泉の中で繰り広げるといいます！ 自慢のびかびかの丸い頭に吸盤を付けて、ハツケヨイ！

そして、その応援にやってきたのが、まん丸な体の地元わんぱく相撲の子どもたち。丸い米俵を担ぎ、力強くポーズ！ 湯船に浸かる力士たちは、絵から飛び出した丸いおむすびをほおばって観戦！ ノコッタ！ ノコッタ！

そんな、のんびりムード満載の温泉相撲ですが、温泉での撮影は時間との戦い！ みんなで集中して撮影したその様子は、「のんびり公式ウェブサイト」をご覧ください！



のんびりしたいは  
みんなのきもち  
のんびりできるは  
ゆたかなあかし  
のんびりまつずぐ  
秋田のくらし



秋田にはうまい飯とうまい酒があります。

その豊かさが秋田の実直なものづくりを支えてきました。

そして同時に、秋田の人々のなかには大らかで力強い「のんびり」精神が育まれました。

そんなのんびり秋田は

右肩上がりの経済成長という

ゴールなきゴールに向かい

懸命に走ってきたニッポンにとって

まるでピリを走るランナーのように映っていたかもしれませぬ。

けれど世の中は変わりました。

順位など気にせずのんびり歩いてきたことがまさに「ノンビリ」となる時代がやってきました。

日本人の多くは今、

うまい飯が食べられてうまい酒が飲めるという当たり前の豊かさについて考え直しています。

しかし秋田では昔も今も、ずっと

それが人々の暮らしの真ん中にありました。

ピリが一番だ。上だ下だ。と

相対的な価値にまどわされることなく自分のまちを誇りに思い、他所のまちも認め合う。

そんなニッポンのあたらしい「ふつう」を秋田から提案してみようと思います。

1 のんびりまっすぐ秋田のくらし

4 秋田「理紀之助が教えてくれる  
本当の経済」

8 第1章 聖農、石川理紀之助？

16 ほかにもあります 秋田の「伝統野菜」

18 第2章 教育の神さま？

28 第3章 りきのすけカルタ

34 ほかにもあります 秋田の「偉人」

36 最終章 秋田からの爽風、宮崎へ。

44 写真家 浅田政志の撮らざるにはいられない！  
第7回／秋田犬

49 下戸式秋たんぼう 福田利之  
第7回／おろ狂、天国地獄行ったり来たり。

54 つくり、つないでいく人たち

61 詩修 詩人が描く池田修三の言葉③  
服部みれい／わたし、いつまで

62 non-biri akita access map

今号の

「あきたびじろ」が

相関図

秋田で暮らす美しき人々あきたびじろ

のんびり編集チーム

秋田メンバー



矢吹史子 船橋陽馬 田宮慎 渡谷和之

県外メンバー



藤本智士 浅田政志 鍵岡龍門 山口はるか

石川理紀之助のご子孫



石川紀行さん

田んぼの神さま



菊地栄一さん

飯田川小学校 校長



小松田直之さん

夜学生の息子さん



竹森和昭さん

理紀之助の絵本の著者



瀬之口ヤス子さん



秋田県



秋田

# 「理紀之助

## が教えてくれる

## 本当の経済」

取材文 藤本智士

Text Satoshi Fujimoto

写真 浅田政志 / 鍵岡龍門 / 船橋陽馬 / 安藤アンディ

Photo Masashi Asada / Ryumon Kagioka / Yoma Funabashi / Andy Ando

イラスト 石川飴子

Illustration Ameko Ishikawa



秋の田んぼと書く秋田県で、毎年秋に開催される一大イベント、「種苗交換会」。そもそも「種」と「苗」で「しゅびょう」と読むということさえ、おぼつかなかった僕は種苗交換会なる言葉の響きに無関心なイメージを重ね、果ては、粋な農業者たちの大人の宴を勝手に想像。いつか僕もその会をもちり覗いてみたいなあなんて思っていました。しかしあるとき、秋田の友人から種苗交換会をはじめたのが石川理紀之助だ（りきのすけ）と聞いた途端、僕の無関心な想像はシャボンのようにはじけて消えて、それどころかなんだか背筋がシャンと伸びる様な心地

になりました。だって、石川理紀之助は「農業の神さま」とまで呼ばれる人。そんな立派な人が考えた種苗交換会です。半ばハロウィンパーティーな僕の空想は見事に厳粛な儀式へと変わりました。と、ここで見なさんのなかに、石川理紀之助？ 農業の神さま？ いったい誰なの？ と続々疑問が湧いたかと思えます。しかし大丈夫です。今回の特集は、秋田が誇る石川理紀之助という人物について、じっくり理解してもらう特集です。なのでちょっとその疑問は置いておいて、まずは種苗交換会が実際どんなものなのか見てもらいましょう。



はい！これが種苗交換会。かなりシュールですよ。ネギネギネギネギネギネギ、キャベツキャベツキャベツキャベツキャベツキャベツとまあ、一言でいうと品評会？素人の僕たちには優秀賞を獲った野菜と、そうでないものの区別が全くつきませんが、これらの野菜たちを真剣なまなざしで眺める農業者のみなさんに、僕は驚きを隠せませんでした。この種苗交換会は、秋田県だけで行なわれているもので、他県にはあ



りません（実はそのことを秋田の人はほとんど知らなかったりします）。いったい、この種苗交換会とはなんなのか？これをはじめようと行った石川理紀之助とはいったい何者なのか？僕が抱いた素朴な疑問を調べていくうちに、僕たちはまたとんでもなく大切なものに出会いました。聖農、石川理紀之助は、間違いなくニッポンの誇りです。さあ、理紀之助を知る旅へ。一緒に！



# 聖農、

# 石川

# 理紀之助？



翁晩年の写真  
六十一歳の年より寒くなるため保温のためこのような服装をした。

## 10月16日 台風直撃

のんびりチーム全員が午前中に秋田集合のはずが、台風26号の影響で予定より8時間も遅れて秋田駅に到着した僕（藤本智士）とアシスタントの山口はるか。すでに到着していたみんなに秋田駅で迎えられ、大慌てで車に乗り込み出発した先は、石川理紀之助のご子孫である、石川紀行さんのお宅でした。

本来は昼間のうちに、理紀之助の地元湯上市にある、石川理紀之助翁資料館に行って、その概要を理解した上で、紀行さんにお会いする予定だったのですが、もはや下準備も何もなし。紀行さん宅までの約1時間の車内で、iPhone片手に必死で最低限の情報収集をします。

そもそも僕が石川理紀之助の存在を知ったのは、『のんびり』を作るようになってからのことでした。秋田の人たちに聖農とまで呼ばれているという事実、とても偉い人だとは理解していたのですが、実のところ何がすごいのかは、さっぱりわかりません。そこで秋田の友だちに聞いて

みるも「具体的には……？」という返答。でも僕は、それが余計に理紀之助のすごさを物語っているのかもしれないと思いました。何をした人かわからないのに、「聖農」や「農業の神さま」といった言葉が一人歩きしてきたわけですか。例えば、長嶋茂雄さん。長嶋さんは、ときに野球の神さまとまで言われますが、どの部分が神さまなのか？ という問いに対して簡潔に答えられる人は少ないと思います。その所以は、決して一言で言い表わせるものではなくて、だからこそ、その偉大さを一言で表わすなら神さまと評するしかなかったんじゃないかと。僕が石川理紀之助という人物に迫りたいと思ったのはそういう理由でした。

## 経済の言葉

すでに真っ暗になった道を走る車のなか、煌煌と光るiPhoneの小さなディスプレイのなかで、僕はこんなものを見つけました。「経済の言葉十四条」。石川理紀之助が、長年の実践のなかで悟り得たという、この十四条に僕はなんだか目が覚めるような思いになりました。

## 「経済の言葉」

寝て居て人をおこすこと勿れ  
遠国のことを学ぶには先ず自国のことを知れ  
資金をのみ力にして起こす産は敗れ易し  
金満家の息子はおほく農家の義務を知らず  
経済は唯金銀を沢山に持つことにあらず  
勸業の良結果はおほく速成を要せざるにあり  
農家にして蓄財を望まば耕地に貸付けて利を取れ  
樹木は祖先より借りて子孫に返すものと知れ  
人力のみにて成就するものは永久の産にならず  
子孫の繁栄を思はゞ草木を培養することを以て悟れ  
国の経済を考へて家の経済を行へ  
豊年にも大凶作あり気をつけて見よ  
金銭はみだりに集むることは易くしてよく使うことは難し  
僥倖（※思いがけない幸運の意）の利益は永久たからにあらず

『石川理紀之助・人と生涯（上）』 川上富三著より

があるんですよ。先立つ人がしっかりしなければ良い教育ができないってことなんです。それがすべてだと思います。あと、理紀之助っていうと地元では、知られた訓言があるんですけど、『寝て居て人をおこすこと勿れ』っていう。

藤本 その言葉、よく聞きますね。

紀行 これは寝ている人を起こすな、っていう意味ではないんですよ(笑)。自分が寝ている人を起こすなんてありえない。何事も自分が率先して行なうべきだということですね。

藤本 なるほど。



紀行 あと、理紀之助は「神さま」になってるんですよ。この先に石川神社っていうのがありますけれど、八幡神社と合祀で、石川神社。

藤本 それは「農業の神さま」と呼ばれたっていう象徴的な意味ではないんですか？

紀行 「生き仏」として祀られてるんですよ。66歳のときに。

藤本 66歳のとき……「存命のときに？ 神社建てられたんですか？

紀行 はい(笑)。

藤本 すごいですね。そんな人、他にいるんだろうか。

紀行 仏教のほうでは、院殿号っていうのを授かってるんですよ。院殿号というのは、院と殿って書くんですけど、殿様でないと使っちゃいけないような戒名なんです。

藤本 ちょっと、次から次へすごい話が出てくるんですけど、やっぱり僕は「聖農」って言葉が頭に入っていたので、最初の僕の質問の答えには、それこそ農業であったり、自然であったり、そういうことが返ってくると思っていたら、いきなり「人づくり」と言われたので、すごくびっくりしました。

紀行 そうですね。勿論、自然って



### 草木谷の暮らし

明治22年、理紀之助は、ただ一人、山奥の草木谷に行き、ここで貧乏百姓の生活をはじめた。貧乏人がどうすれば、楽なくらしかできるかというところを、実際に研究してみるためであるが、3年間の努力の結果、工夫してはたらけば必ずくらしがよくなるという証拠を示した。

石川理紀之助翁記念館パネル展示より

藤本 そもそも僕たち県外の人間にとって理紀之助さんというのは、馴染みのない名前です。けど「聖農」と呼ばれているって聞いて、これすごいですよね。聖人の「聖」に農

紀行 あと、理紀之助は「神さま」になってるんですよ。この先に石川神社っていうのがありますけれど、八幡神社と合祀で、石川神社。

藤本 それは「農業の神さま」と呼ばれたっていう象徴的な意味ではないんですか？

紀行 「生き仏」として祀られてるんですよ。66歳のときに。

藤本 66歳のとき……「存命のときに？ 神社建てられたんですか？

紀行 はい(笑)。

藤本 すごいですね。そんな人、他にいるんだろうか。

紀行 仏教のほうでは、院殿号っていうのを授かってるんですよ。院殿号というのは、院と殿って書くんですけど、殿様でないと使っちゃいけないような戒名なんです。

藤本 ちょっと、次から次へすごい話が出てくるんですけど、やっぱり僕は「聖農」って言葉が頭に入っていたので、最初の僕の質問の答えには、それこそ農業であったり、自然であったり、そういうことが返ってくると思っていたら、いきなり「人づくり」と言われたので、すごくびっくりしました。

紀行 そうですね。勿論、自然って

いうのも理紀之助は大事にしています。自然から人間は生かされてる、ってことで、理紀之助が死ぬ直前に孫を集めて、『天地の御めぐみ、忘るべからず』ってたどたどしく書いたのが資料館に残ってます。それだけ、自然への畏敬の念、感謝を忘れちゃいけないと言ってます。そういう意味で、理紀之助の一番の原点となるのが、「草木谷」で。我々は「草木谷を守る会」っていうのをやってるんですよ。(名刺をいただく)

のんびりチーム 頂戴します。

紀行 草木谷ってこの先、1キロぐ

らい先にあるんですけど。理紀之助が3年間、貧農体験したところなんです。というのも、理紀之助は貧しい村を救うために本当にいい指導をして結果を残したことで、「ほんとかなり？」って疑われたんです。理紀之助は当時地主だったんで、実はお金を使って成果を挙げたんでないか？ っていう疑問が周りから出てきたんですよ。だから、そうじゃないってことを証明するために、単身、この先の草木谷に入って、自ら小作人になって貧農体験したんです。その場所が草木谷です。

藤本 その言葉、よく聞きますね。

紀行 これは寝ている人を起こすな、っていう意味ではないんですよ(笑)。自分が寝ている人を起こすなんてありえない。何事も自分が率先して行なうべきだということですね。

藤本 なるほど。

### 石川理紀之助の子孫 石川紀行さんのお話

理紀之助が高祖父(祖父母の祖父)にあたる、石川紀行さん(65)宅に到着したのは、19時過ぎ。紀行さんだけでなく「草木谷を守る会」という組織のお仲間みなさんも一緒に待ってくださっていました。

### 子孫の紀行さん

どうですか？ 明治時代に残されたこの言葉は、平成の現在、もっとも必要な言葉のように僕は思いました。経済というものの意味をはき違えたこの世の中で、僕たちが石川理紀之助という人物に出会ったことの必然に、僕は一人車内で高揚していました。



業の「農」。どれほどの人なんだろうとむくむくと興味が湧いてきたんです。なので僕は秋田在住のメンバーに「石川理紀之助ってどういう人なの？」って聞いてみたんです。

紀行さん(以下敬省略) わからないでしょうね。

藤本 そうなんです。わかんないですよ、みんな。「聖農」って言葉や「農業の神さま」っていうざっくりしたことは言ってくれるんですけど、実際にどういうことをしたのかということ、秋田に住むみんなも知らない。なので、本当に初歩的なところから聞かせてもらいたいんですけど、石川理紀之助さんって何をしたら人なんですか？

紀行 はい。まず、一言で言えば「人づくり」ですね。要するに教育の底上げというか、それで生涯を頑張った人ですね。「人づくり」。

藤本 「人づくり」ですか！ びっくりしました。

紀行 いきなり堅苦しい話になるんですけどね。このすぐそばで豊川小学校っていう廃校になった学校があったんですよ。その小学校の校門のところに、『天の無欲を教育の基とせざれば人道治まらず』っていう石碑

**紀行** とにかく、人生を一時も無駄にしないってことで、『熟睡するのは4時間でよし、安眠は6時間、惰眠は終日終夜なお足らず』と言っていて、惰眠はなんぼ寝ても眠い、と戒められています。

**藤本** そんな人だからこそ『寝て居て人をおこすこと勿れ』。

**紀行** 指導者っていうのは自分から率先して動かないと、あれこれ命令するだけではついていけないよってことですね。理紀之助は人にやれやれって強く押しつけたみたいじゃありませんけど、朝、自分は4時間しか寝ないで2時に起きて、みんなには3時に起きてと早鐘を叩いて起こして。当然、起きない人もいるんですよ。でも怒らなかつたんですね。そうした場合は早く寝ると指導してます。そうすれば、黙ってても早く目が覚めるって。自然の指導の仕方っていうか。理紀之助は九州の宮崎にも貧しい村を救いに行ってるんですけど、たった6カ月の間で、最後には全く読み書きができない子どもが、別れの言葉を紙に書いて、読んでるんですね。理紀之助っていうのは、子どもの教育にもすごく力を入れてるんです。理紀之助は時計の一回りを人生と例え

て、朝7、8時がつまり子どもの7、8歳。昼ごろ起きたんでは一日があつたというまに終わってしまうと例えて。

**藤本** みんなに「理紀之助ってどういう人なの？」って聞いたときに、釈然としない答えが返ってくる理由がまず一つわかった気がするの、僕たちがこれまで耳にしていた理紀之助さんに関する言葉は、「聖農」に代表されるように、「農」ってことなんですけど、むしろ、聞けば聞くほど「教



### 暁の掲示

仙北郡強首村九升田（現・大仙市九升田）の救済事業は至難の仕事だといわれていたが、理紀之助は、その生命をかけて、この仕事にあたることにした。68歳。大正元年である。村の復興は早起就業からと、午前3時に板木をうって、村人を起こし、すぐ巡視してその結果を掲示して村人を奮発せしめた。村人は競ってはたらき村は復興した。

育」っていうところが原点ですよ。ね。

**紀行** そうですね。

**藤本** なのにあんまり、その「教育」ってことが、理紀之助さんの資料を見ても言葉として出てこない。「農事奨励のため」「農村の更生」「農民の救済」って確かにそうなんですけど、そのすべては、本当に「人づくり」なんだと。

**紀行** はい。

**藤本** 僕は今日、ここにくるまでの間にはじめて、経済の言葉十四ヶ条を見て、衝撃を受けたんです。正に今、必要な言葉ですよ。



**紀行** 理紀之助はこの先の「奈良家」っていう国の重要文化財になっている名家の分家に生まれたんですね。奈良家に跡継ぎがいなくて、将来、この理紀之助を奈良家の跡継ぎにしようと思ってたんです。奈良家っていうと秋田で二、三を争う大地主ですから、敷かれたレールを行くばかりだったんですけど、その奈良さんの言うことも聞かなくて自分の信念を貫き通した。それでうちの親族（石川家）の長十郎っていうのが、こいつは見込みがあるってことで21歳のとき

**紀行** 草木谷というのは俗称で、まさに草と木と谷だけという感じで。今は道路があるんですけど、昔は山越えして行かなければならない大変な場所だったんです。

**藤本** なるほど。

**紀行** 今行くともなくて、寂しくておつかないところなんです。よく一人でいられたなと思うほど。だから人一倍、信念っていうのが強い人だったんですね。

**藤本** そもそも、その信念はどこから生まれたんでしょうか？



### 暁の読書

14歳の時、理紀之助は、本家に若勢としてつかわれた。主人は理紀之助の勉強を禁じたが、どうしても本を読みたく、15歳の時から朝早く起きて勉強するくせをつけた。人がまだ眠っている午前2時ごろに起きて一心に本を読んで勉強した。

きに婿にもらったんですね。

**藤本** はーなるほど。

**紀行** 当時、石川家は借金で大変になっていて、こいつだったから見込みがあると、21歳のときに家産を全部預けたんです。長十郎も長十郎ですごいなと思うんですけど。21歳のどうなるかわからない人間にね。そこからすごい指導力を発揮して石川家を立て直し、その後も次々と成果を挙げたという事です。

**藤本** 経済の立て直しをしたんですね。

**紀行** 奈良家に居たとき、15歳で全部を取り切る若勢頭になつたんですよ。とにかく本を読むのが好きで勉強が好きだったんです。だけど農家に学問は必要ないと、奈良家の主人に大切な蔵書を全部焼かれてしまったんですね。それでも諦めなかつた。当時、農業をする人は朝の4時頃に起きてたんですが、夜に勉強していけないなら、朝2時間早く起きればいってことで、朝の2時に起きたんですね。

**藤本** それ朝ですか？（笑）





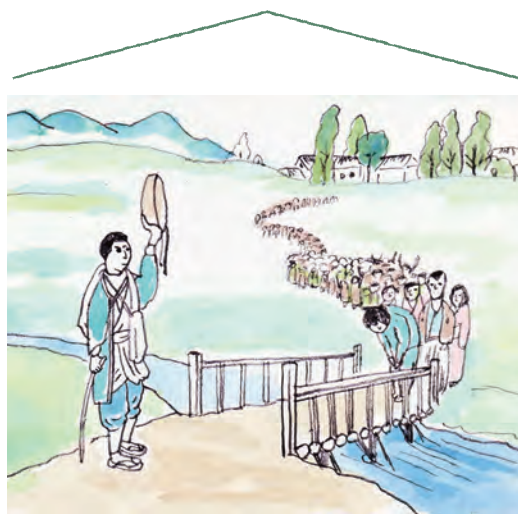
「ま、理紀之助さんからだ」と聞いてたんですけれど。

**紀行** アイデア自体は佐藤九十郎という人だと思えます。それをヒントに。ただ、後から、佐藤九十郎が種苗交換会を全部やったなんて言う人も出てきたんですけど、理紀之助はそれを否定しなかったんですね。そのヒントがあったから、できたということ。自分の手柄にする人ではなかったんです。今は、県のほうで農場試験場とかありますけど、当時はそのようなところがなかったもんで。自分の土地の種がずっと自分のところだけのものだったんですね。いい種っていうのはみんな出さないんです。それでは駄目だ、ということ。いい種はみんな分ち合いますよ。交換しましょうということ。

**藤本** いい物を共有して、シェアしていきましょうと。

**紀行** そうです。そしてみんな豊かになるっていう。そうやって凶作でも死ななくていいようにと。

**藤本** なるほどな。本当にすごい。ちなみに、宮崎県には、理紀之助さんに敬意を表して胸像が建っているって聞いたんですけど、本当ですか？



### 九州へ行って

庄内村谷頭（現・宮崎県都城市）の指導は6カ月で終わった。しかしこの6カ月の間に理紀之助と村人の心はかく結びついてた。理紀之助の教えによって村の人はよく働き貯金するようになった。別れの日。夜中から村の人たちが集まって、別れを惜しみ、まだ明けきれない暁の道をどこまでも送ってくるのであった。

**紀行** ええ、私も信じられないぐらいで。理紀之助が向こうに行くと、いよいよ秋田に帰るとき、迷惑掛けちゃいけないっていうことで、朝の1時に出ようと思っただけです。そして、それを聞きつけて、前の日から泊まりがけで、あつちの村からこつちの村から100、200人って。とんでもない人間に見送られたんですね。

**藤本** 亡くなってから伝説がどんどん膨らんでいく人っていると思うんですけど。生前から生き神さまだと



か、ものすごいですよ。それだけかわった人たちが、実際に変われたということですよ。今のようにメディアが発達してないのに、ここまで伝わっているっていうのは、相当な感動だったんだろうなあ。

**紀行** やっぱ理紀之助が残してきたのは、物ではないですね。「勤勉さ」とか、人の意識を育ててきた。そういうことなんだと思います。



**紀行** そうですね。ただ、例えば「農家にして蓄財を望まば耕地に貸付けて利を取れ」。こういうのを見て、理紀之助っていうのは何？ 結局地主になれてること？ って思われたりする。でもそういうことじゃなくてこれは土地を大切にしないってことで、いい土地、土づくりをすれば、今まで50しかできなかったのが60、70もできるようなになると。それが「利」なんです。『利』はそうやって取れるってことなんです。

**藤本** 誰かに土地を貸しつけて、金銭の利益を上げることではないですよ。この話、とても重要だと思っんです。つまり、十四ヶ条にもハッキリと書かれているとおり、『経済は唯金銀を沢山に持つことにあらず』なんだと。土地を耕し、よい土地にして収穫を得、子孫に残していくということが経済で、ただただお金を稼ぐことが経済ではないよ、って。僕は正直この言葉に救われるような思いになりました。僕たちが作っているこの本のタイトル『のんびり』は、「NONビリ」つまりは、ビリじゃないよっていうメッセージでもあるんです。つまり経済をイコール金銭としたときにはビリに近いかもしれない

い秋田県だけでなく、本当の意味での豊かさを考えたときには、「NONビリ」なんだと。

**紀行** なるほど。そういう意味も。

**藤本** 石川理紀之助という人が明治時代に残してくれたこの言葉を、今こそ日本人はよく考えないといけないと思うんです。お金っていったいなんだろう？ って。

**紀行** そういうことで言うと、理紀之助は当時の古銭の研究者の中で五指に入っていました。古銭長者とも言われて、でも長者って持つてるという意味ではなく研究者っていう意味なんです。「何で理紀之助が？」って質問する人がいるんですけど。当時、古銭そのものからも、勉強して研究して、当時の経済を知ろうとしたんです。何でも物見遊山ではやってないんですよ。

**藤本** なるほど。

**紀行** とにかく当時の秋田県の農家っていうのは、地主からみんな借金して。生産性も上がらないし、やる気もない状態だったんですね。それをどうやって指導してって、借金を返していったかということに、すごく大きな何かがあったと思います。

**藤本** そもそも、種苗交換会のはじ





Dentouyasai

## 秋田の「伝統野菜」

古くから秋田の土地で作られてきた伝統野菜。  
豊かな食文化を支えてきた、「土の下の力持ち」をご紹介します！



### カナカブ

種を撒いてから60日程度で収穫できる、根長が15センチほどの白長カブ。そのほとんどが、無肥料、無農薬で栽培されており、パリパリとした食感ほ、漬け物に最適！

### 三関せり

ぎりたんぼなどの具材として、秋田の鍋物には欠かせない、せり。特に湯沢市三関のものは、茎が太くシャキシャキ感と風味が格別！白く長い根の部分も食べるのが秋田の鍋の常識！

### 松館 しぼり大根

目が覚めるような辛さが特徴のしぼり大根は、県北鹿角でのみ作られ、100年以上の歴史があります。おろし専用の大根で、すりおろした絞り汁は薬味となり、蕎麦や刺身のアクセントとして、お箸も進みます。

### 山内にんじん

30センチ以上ある、太くて長いにんじん。甘みがしっかりあり、煮物や鍋物、いぶりがっこなどにも使われます。晩秋に収穫され、翌春まで地元の直売所に並びます。

### 横沢 曲がりねぎ

種を撒いてから2年余りをかけ、植えかえ、寝かせ、柔らかさと風味を出すという独特の栽培方法のねぎ。鍋や焼きねぎなどでも火を通しすぎず、甘みを楽しむのがおすすめ。

### ちよろぎ

そのユニークな形と名前が印象的な、ちよろぎ。古くから「長老木」の当て字で、縁起物としておせち料理にも使われます。さくさくの歯ごたえで、漬け物として食べられます。



脂のり期

- 1 28歳のとき、理紀之助は秋田県庁の役人になります。農民が役人になるのは珍しく、秋田県では唯一人でした。
- 2 以降、10年の役人生活のなかで様々な農業行政にかかわって現在の礎を築いていきました。
- 3 例えば、米を腐らせないための乾燥法の改善。種苗交換会を続けしていく土壌づくりなどなど。



- 4 しかし立派な農民になることが志の理紀之助は三十数回辞表を出していたが受け付けてもらえませんでした。

- 7 そのことから、多くの者が、理紀之助の適産調に対する思い、村おこしの実践を学んだと言えます。



そして最後にもう一つ駆け足で。

晩年期

- 1 尊敬している前田正名から、理紀之助のもとに手紙が届きます。そこには要約するとこんなことが。
- 2 「数年前から開田事業を行なっている。それがようやく完成し、新しい農村をつくらうとしている」

- 5 ちなみに当時、理紀之助がやっていたことの根本は、施策云々よりも、農民のやる気を育てることでした。

- 6 10年役人を務め、ようやく山田村に戻った理紀之助は、村の経済が借金だらけになっていると気づきます。

- 7 41歳。「山田村経済会」を作り、村民一同で勤勉、節約を実践。7年計画のところ5年で村を立て直します。

というのが脂がのった働き盛りな理紀之助の仕事でした。

初老期

- 1 しかし山田村経済会の成功は、石川家が地主だからだ、貧乏人の気持ちを知らないなどと言われはじめます。

- 2 自身の疑いを晴らすことと、山田村の村民の努力ゆえの成功であることを示すべく、草木谷に籠ることを決意。

- 3 「そこであなたとその同志に来てもらいたい。しかし資金がなくなり、報酬も旅の資金も出せない」

- 4 尊敬する正名に自分の仕事が認められたことが嬉しいが、一緒に行ってくれる仲間はいらるだろうか？

- 5 理紀之助が村の仲間に事情を話すと、7人が同行したいと申し出てくれた。

- 6 58歳。宮崎県の庄内村谷頭に入り、言葉も慣習も違う村をたった6カ月で立て直します。

- 7 秋田に戻って以降も各村の救済に尽くすも、大正4年9月8日71歳でその生涯を終える。



- 3 45歳。一人草木谷に入り、自ら貧しい小作人の生活のなか、勤勉、節約を実践。蓄えを生むことを証明。

- 4 そんな理紀之助のもとに、その教えを学びたいと近村の有志が訪れるようになります。

- 5 草木谷は次第に、志ある青年たちの学習の場になり、石川先生、石川老農と慕われるようになります。

- 6 これまでの体験が評価され、第一回全国農事大会に出席。幹事長の前田正名から「日本一の老農」と紹介されます。

- 7 これが元で、九州各県を巡回講演することになり、以来、各県から呼ばれるようになります。理紀之助50歳。



ってことで全国に名を知られるようになったわけですね。

2度目の脂のり期

- 1 日本一の老農と呼ばれるからには、そう言われるにふさわしいことをせねば、と思う理紀之助。
- 2 山田村経済会の成功などが知られていくにつれ、その受け止められ方が気になりはじめます。

- 3 山田村のやり方がすべての土地に適しているわけではない。その土地にあったやり方が必要だと。

- 4 それを、それぞれが考え実践することが大切であることを伝えねばと強く思います。

- 5 ついては、作物の適地適産だけでなく、農家経済の適地適産が必要だと「適産調」をスタート。

- 6 この調査員として実質、県内1万人以上の人物がかかりました。



最後、駆け足すぎましたね(笑)。しかしこれで石川理紀之助という人物が果たしてきたことの概要がわかっただけで、思っています。さあ、取材に戻りましょう。

ビデオ『板木のひびき』

紀行さんのお話を聞いた翌日の朝のんびりチームは再び、理紀之助が生涯を過ごした潟上市豊川山田へ向かいました。まずは理紀之助が祀られているという、石川神社にお参りをしてから、昨日伺えなかった資料館に伺い、理紀之助の生涯をみんなが復習します。そこで、見せていただいたビデオ『板木のひびき』。15年以上前に制作されたそのビデオから、地



元、豊川小学校の校歌に理紀之助の言葉が入っていることを知りました。現在は大久保小学校と統合され、大豊小学校になっているとのこと。それでもなお校歌に理紀之助の言葉が残っているのか、が僕はなんだかとても気になりました。というのも、僕は紀行さんにお話を伺ったことで、石川理紀之助という人は、農業の神さまというよりは、教育の神さまと言った方がいいのではないかと感じていたのです。理紀之助が生涯をとおして果たしてきたことは、紀行さんが言ってくれた「人づくり」です。ならばその精神が、せめて地元の小学校や中学校などに残っていれば良いなあと思っていました。



## 宮崎のひと

さらにそのビデオのなかでもう一つ気になる映像が。それは竹森和昭さんという方のインタビュー映像でした。

「うちの親父が夜学校の学生でですね、6カ月間学んだんで。理紀之助が秋田に帰るときに、鹿兒島まで3名の夜学生が送って行ったんでね。そのなかの一人ですが、貯蓄を非常にすすめておったというような話を聞いてですね、うちの親父は私に、辛抱は金のあるうちにしなさいと。金があるうちに辛抱しなさいということ。強く親父から聞いております。それも、石川理紀之助翁の考えではないかと今考えておるところです」

理紀之助が晩年、前田正名という偉い人に村の救済を頼まれ、仲間とともに訪れた宮崎県庄内村谷頭。言葉さえ通じないなか、たった6カ月で村人たちの意識を変え、帰り際には村人たちが慕って、秋田に帰らんとする理紀之助の後をどこまでも付いてきたというお話。竹森和昭さんは、実際にギリギリまで付いてきた張



本人の息子さんでした。宮崎県には理紀之助の胸像があるそうです。僕は正直、宮崎のことが気になって気になって仕方ありませんでした。ビデオを見終わり、ふと、資料館の芳名帳を見ると、そこには宮崎県都市がら来られた方のお名前がありました。

## 地元の学校へ

資料館の展示コーナーをさらに階上に行くと思議なことに、外と繋

がっていて、そのまま資料館の裏手の山に抜けることができました。

そこから少し歩いたところに、理紀之助のお墓がありました。それぞれに手を合わせながら、僕たちは、あらためて今後のことについて考えます。聖農のような漠然とした言葉じゃない、理紀之助のリアルな生涯を少しずつ理解しはじめていた僕たちにとって、このことをどう伝えていくか、というのはもはや自分たちの使命のようにすら感じていました。僕たちは近くにある「万松」という食堂に移動し、昼食をとりながら、今後の動きについて話し合います。秋田編集チーフのヤブちゃん（矢吹史

子）が、大慌てて調べてくれた情報によると……。

●やはり、大豊小学校の校歌には「寝て居て人をおこすこと勿れ」という理紀之助の言葉が入っているらしい。

●羽城中学校というところに、理紀之助のミニ資料館みたいなスペースがあるらしい。

●飯田川小学校には、理紀之助直筆の掛け軸が飾られた部屋があるらしい。

ということがわかりました。僕たちはひとまず、現在に息づく理紀之助

の精神を探るべく、それぞれの学校に行くことにします。まずはここから車で3分の羽城中学校に移動。突然連絡をして訪問したにもかかわらず、快く迎えて入れてくださり、早速足を踏み入れた僕たちの目にいきなり『寝て居て人をおこすこと勿れ』という理紀之助の言葉の巨大な銅板鍛金が飛び込んできました。さらに中へ進むと、ふだんは卓球部の練習スペースになっているその奥に、石川理紀之助コーナーがありました。

そこへやってきてくれた教頭先生曰く、理紀之助の言葉ではないけれど、校歌に「聖農」という言葉が入っているとのこと。早速それを確認するべく、体育館へ移動。そこに掲げられた校歌には確かに「高い理想と仰ぎみる 奥羽の山よ 聖農よ」というくだりがありました。

引き続き大豊小学校に移動。子どもたちが縄跳びを練習している体育館に案内いただき、その傍らに掲げられた校歌を確認。2番の途中に「寝ていて人を起こすなと 大志をいだき自ら努め」との文字が。案内いた



いた先生がおっしゃるには、学校が統合され、校歌も統合されたけれど、理紀之助さんの言葉の部分は残されたとのこと。さらにちやうど明日、大豊小学校の5年生たちが、草木谷で稲刈りをするというのも教えてくださいました。

## 飯田川小学校

そして最後に向かったのは、飯田川小学校。こちらの先生方はありがたいことに『のんびり』の大ファンだということ、まっすぐ校長室へと案内してくださいました。そこでまずは校長先生のお話を伺うことに。

### 飯田川小学校 小松田直之校長先生のお話

校長 実は、私この学校、今年からなんですけど、理紀之助直筆の掛け軸があると聞いて、ほんとにあるのかって見に行っちゃったんですよ。そして、あるんですね。藤本 そうなんです。

**校長** それで私も理紀之助さんの資料館にあらためて勉強に行ったりしてたんですけども、つまりはこの土地のスーパーマンなんですね。村を救った。今、ああいう人が欲しいですよ。立て直していく人。私たちはそういう子どもさんを育てなきゃいけない。

うことは聞いていたので、割と「農」のことは頭に入っていたんですけど、昨日、ご子孫の紀行さんという方に、理紀之助さんってつまり何をした人ですか？ って聞いたら、「人づくり」だって言われたんです。なるほど！ って思いました。

**校長** 思いますね。  
**藤本** 農業っていう言葉はいつぱい出てくるんですけど、なかなかそこから本質は見えなくて、でも人づくりっ

て言われたときに、すごい合点がいったんですよ。まさに教育だと。

**校長** 秋田県は少子高齢化なので、子どもたちは学力の面でもいい結果出してるんですけど、県外に行っちゃうんですよ。私が一生懸命考えているのは、ここで育ったお子

さんたちが仮に一度県外に出たとしても、最終的に戻ってきて、結婚して、子どもをいっぱい産んでもらおうと。でも、よくその話をすると、帰ってきてても仕事がないって言うんです。だったら仕事を

作る。どうすれば働けるかということを作る人。いわゆる町おこしをやる、そういう人を育てなきゃなって思っています。

**藤本** やっぱ理紀之助さんの経済の考え方は、今でいうところの金儲け主義ではなくて、地域の資源みたいなものをどう育て残していくかってことだから、そういう理紀之助さんが考える経済の考え方が今の若い人に伝われば、町づくりっていうこと

**校長** 実は、うちの学校でやってる農業学習を毎年まとめて、種苗交換会の学校の部門で、なんと5年連続賞をいただけてまして。正直私プレッシャーです(笑)。過去に提出したものが廊下にあるんですけども、もしよろしかったら見てってください。このトロフィーはみんなそれぞれです。知事賞とNHK局長賞かな。

**一同** すごい。

**校長** いろいろ教えてもらっている、子どもたちが、「田んぼの神さま」って呼んでる方は、「俺は賞をもらうためにやってるんじゃない」って言うてくださったんで、ちょっと気が楽になったんですけど。

**矢吹** その方は理紀之助さんのことをお話したりするんですか？

**校長** 直接の話はないですけども、田んぼにかかわる話はしてくれま



ね。しかも、子どもたちにちゃんと沁みる話を。自分が植えたバケツの世話だけしてちゃダメなんだと。夏休みにきたときに、これない子の分を世話してあげることが大事なんだって話をしてくださるわけですよ。

**一同** へえ〜。

**藤本** その方は、普段農業をされる方ですか？

**校長** そうです。

**藤本** お話聞いてみたいなあ〜。

**校長** お忙しい方ですけど、ぜひ。

校長先生のお話を伺った僕たちは、さらに、理紀之助直筆の掛け軸があるという和室に案内いただきま



### 田んぼの神さま、 菊地のおっちゃん

さらに、校長先生が教えてくれた、子どもたちの農業学習の掲示をみせてもらうことに。それは僕たちの想像を遥かに越えた素晴らしい。その内容もさることながら、一枚の画面に数々の学習の成果を張り付けていく、そのレイアウトの秀逸なこと。そしてそこに何度も出てくるのが、子どもたちが田んぼの神さまと呼ぶ、菊地のおっちゃんの写真でした。そこに書かれた菊地のおっちゃん言葉「米作りはどうだったか？ もっとやりたければ農家の嫁になれ！ 男は農家になれ！」そのストレートな言葉に感動した僕たちは現代の聖農(?)菊地のおっちゃんに会いに行くことを決めました。

飯田川小学校を出て、菊地のおっちゃんがいらっしゃるといふ作業場へ。しかしながら、奥さん曰く、ちょっと行き違いで出てしまったとのこと。ただ30分ほどで戻られるとのことなので、しばらくその場で待たせてい



料館、あれも俺作ったんだや。  
藤本 えー！  
菊地 俺は作業員のうちの一人だど  
もな。  
藤本 資料館ができたのは何年前で  
すか？  
菊地 30年ぐらいはなるがな。  
藤本 栄一さんが学校で子どもたち  
に、稲に水をやるときに、自分のだけ  
じゃなくて、他のみんなの稲にもあげ  
ようね、って話をしてくれたっていう  
ことに、校長先生がとても感動され  
てたんですけど、その考え方は普段の  
農業のなかで得たものなんですか？  
菊地 結局、農業って一人でやって  
るもんでない。農協どが、地域の人  
や団体がみんな集まって農業をやっ

てるわけ。学校だって同じで、休む  
人もいれば、とぼける人もいれば、な  
んな人でもいる。水やるんだば自分の  
どこだけでねぐ、他人のどこさもや  
る、休んだ人だちの分も。農家だつて  
みな同じだ。みんな教えたり教えられ  
たり、手伝ったり手伝わせたり、協  
力し合ってやってるんだ。それがなし  
て（なぜ）できねがってごどや。秋に  
なつて、一人だけ稲のあんべ（具合）  
悪くて刈り穫る米ながつたつ  
てば、困るのや。一人でも脱  
落者がいれば。我々だつてそう  
やって助け合つてやってらん  
ながら、小学校はもぢろんだつ  
てごどやつてらんた。  
藤本 理紀之助さんは、種苗  
交換会をはじめたとか、農業の  
発展に尽くしたとかいわれる  
んですけど、昨日子孫の方に  
話を聞いたときに「理紀之助さ  
んって人は、すなわち何をした  
人ですか？」って質問をしたと  
きに、一言「人づくりです」つ  
ておっしゃつたんです。  
菊地 いや〜いいごどだなく！  
藤本 今、栄一さんが、小学校  
で農のこと教えてくれて、それ  
を校長先生がすごく感動して



ただくことに。その間に、あらためて  
のんびり編集会議。そこで僕は、先ほ  
どの飯田川小学校の和室で膨らんだ  
イメージをみんなに伝えます。そのイ  
メージとは、取材最終日の明日、あ  
の和室でカルタ大会をやるというこ  
とでした。そもそも今日の昼間の話  
し合いの場でも、理紀之助の生涯を  
カルタにして伝えるのはどうだろう  
か、というアイデアは出ていたんです  
が、たった一日でそんなもの作れるの  
か？ という当たり前の疑問を前に  
二の足を踏んでいました。しかし、あ  
の和室を見た僕は、あそこで子どもた  
ちと一緒にカルタ大会をしたいとい  
う気持ちをおさえることができま  
せんでした。ヤブちゃんは、早速、飯  
田川小学校に電話して、明日、茶道  
クラブの子どもたちとカルタができ  
るようにお願いします。と、そんな  
ところで、菊地のおっちゃんこと、菊  
地栄一さんが帰ってこられました。



田んぼの神さま  
菊地栄一さんのお話

感謝してるっていうのは、栄一さんが  
人づくりしてくれてるからですよな。  
農っていうのを通して。  
菊地 いや〜人づくりなんだべが。と  
にかく協力へ（しろ）ってごどなのや。  
バケツ（バケツで育てる稲づくり）は一  
人ずつやってるども、全部連帯責任  
で、収穫の喜び、自分のバケツ自分  
で刈り取るごどまで行かねば話にな  
らんねんだが。それは協力だべ。だが

ら、みんなで助けあったり、教え合つ  
たり、何でも研究する。40人いれば40  
人のまなこで見るべ。我々、一人  
で二つのまなこより見えねが。それよ  
り40人で、いろんな考えあつてディ  
スカッションすることによって、いろ  
んな問題でも何でも解決できる。解  
決さねつても、いろんな問題さぶち当  
だつてディスカッションできる。それ  
がおもしろんでねえが？

藤本 理紀之助さんは、66  
歳のときに生き神さまとし  
て石川神社に祀られて、す  
ごいなつて思つたんです。  
そしたら今日学校の農業学  
習のパネルに「僕たちの田  
んぼの神さま、菊地のおっ  
ちゃん」って書いてあつて。  
菊地 なあ〜に〜（笑）。  
藤本 ここに生き神さまい  
た！と思つて（笑）。  
一同（笑）。  
菊地 誰も建ててねくて、  
自分で神社建てねばねん  
でね〜（笑）。





# りきのすけ カルタ

第3章



## カルタづくり

なんとも楽しい菊地のおっちゃんのお話のなかにも、理紀之助の精神が脈々と受け継がれていることを感じた僕たちは、大急ぎで秋田市内の編集部へと戻ります。もちろん僕は道中の車内から必死になってカルタの読み札を考えていました。

さあここからは想像どおり、のんびり恒例、NONのんびりな怒濤の作業大会です。本誌『のんびり』のタイトル文字を描いてくれる須田くん、五十音の文字を描いている須田くん、秋田デザイナーの澁谷くんが、僕の考えた読み札をもとに、ひたすら絵を描きます。残りのみんなはそれぞれに絵をスキャンしたり、色を塗ったりと、とにかく必死の徹夜作業。理紀之助が起きる午前2時になってもまだ作業が終わる気配なし。全員でヘトヘトになりながらなんとか完成を迎えたのは朝の4時でした。とにかく、そんな徹夜作業を経て完成したカルタがコチラ！



本読みたい 読みたくって 仕方ない



起こしても 起さない人を 怒らない



えい、えい、おー！ 借金を返済 するために



憂け継ごう 人づくりの 精神を



井戸を掘る ならば水の わくまで



あつがれの 菅江貞澄は 旅の人



命日祭 九月八日は 大事な日



村全体 良くなる事で 家も良く



富強へ 歩いて向かう 大変だ



卒の賞金 村のみんなは わけあおう



燃やされて 逆に燃えたよ 理紀之助



世にはまだ 生まれぬ人の耳にまで ひびきとせよ かけたの音



「ゆきま」と 言っても 付いてくる人々



勇気 人のため 我は難



端々と 舞く踊る 見る古鏡



立派な農民に なることが 由世以上の志

六十六歳 生きて神さまに なった人



練習と 研究重ねて 達筆に



ルンレン 七年のほすが 五年を落し



お宮じいさんの 影響を受けた カ之助



和歌が好き 作った数は 三千万首



これまでの 親方ぐらしを ますやめる



経済は 金持ちになる ことじゃない



草木谷 まじめに働けば 蓄えも。



因作だ 急げ！ 死んでは ならないぞ



かまごつぶし いわれてもお 諦めず



その村に あった道筋を 適産調



先祖より 借りて 子孫に 返す樹々



すべての人に 心のじょうきが 必要だ



種苗をね 交換すると 良いはずだ



三十回 辞表出したって ほんとかんや



銅像を 建ててくれたよ 宮崎県



伝説の 聖農と呼ばれ 親しまれ



通じない 言葉を越える こといさつ



長男の 死を乗り越えて まだ進む



他人より 二時間はやく 起きればいい



脱がないぞ もんべんに 縛りつ 木綿の着物



二十一歳 石川家へと 婿養子



仲間たちと つくった 農業耕作会

藤本 ご協力本当にありがとうございました。うございしました。

校長 いやあ素晴らしい。石川理紀之助っていう人に注目していただいて。地元の子どもさんたちにね、振り返らせるきっかけになればなって、こちらこそありがたかったです。

藤本 ぜひ、全校あげてやっていただきたいです。さすが



もたちもエキサイトしてくれて、なんとか無事カルタ大会は終了！ 偶然にも最後の読み札が『寝て居て人をおこすこと勿れ』だったことに、僕たちは少し感動していたのでした。

## りきのすけカルタ大会

なんとかカルタを完成させた僕たちは、一旦それぞれ家路につくも、理紀之助にならって、睡眠は4時間！とばかり、再び朝9時に集合。というのも、飯田川小学校の小松田校長先生の協力もあって、なんとか13時から例の和室で茶道クラブの子どもたちと一緒にカルタ大会ができることになったのでした。一枚一枚をラミネートしたり、複写撮影をしたりと、最終仕上げを終えて、さあ飯田川小に出発！

理紀之助の肖像写真と、直筆の掛け軸がかけられたこの部屋で、りきのすけカルタを披露できることに感動を覚えるのんびりチーム。背筋が伸びるような気持ちになるなか、子どもたちよりも早くそこにきてくれたのは、理紀之助のご子孫の紀行さんでした。僕たちはさらにありがたい気持ちになりながら、ついに迎えた13時。約束どおり、茶道クラブの12名（4年〜6年生）がやってきてくれました。子どもたちの時間が限られているため、早速カルタ大会スタート。とにかく子ども



に子どもたち、名前はみんな知って、だけでもう一歩踏み込んでもらうだけで違うなって思いました。ぜひ継続的に学校でやっていただければ嬉しいですね。

校長 いやあ、できればいいですね。

## 終わりだけとスタート

校長先生にも喜んでいただけて、とにかくやりきった！ という満足



感じてほしいの僕たち。確かな手応えを胸に秋田市内へと戻り、その足で向かったのは農協でした。数週間後に開催される今年の種苗交換会の会場でもカルタ大会をやりたい！ と思った僕たちは、その交渉をするべく農協までやってきたのでした。急なアポイントにもかかわらず、親身になってお話を聞いてくださるJA秋田中央会 総務企画部長 伊藤真澄さん。すべてのプログラムがすでに決定しているこの時期からのお願ひにもかかわらず、結果、僕たちは種苗交換会の会場でも無事りきのすけカルタ大会を行なうことができました！ さらに潟上市の教育委員会の方からは、ぜひこのカルタを有効に使いたいというお話しもいただきました。ということで僕たちは引き続きこの、りきのすけカルタを多くの子どもたちに遊んでもらうべく、アクションを起こし続けていきます。



しかし今回はここでタイムアップ！ 石川理紀之助という人物に迫りながら、なんとか自分たちなりのアウトプットまで一気に突っ走った3日間。いかがだったでしょうか？ 日本中の人たちに、理紀之助という人物の偉大さを伝え、その言葉に触れてもらう、そのきっかけになれば良いなあと思いつつ、ここで一旦筆を置きつつ……僕は秘かに、宮崎行きフェリーの予約をとったのでした。





## Ijin 秋田の「偉人」

秋田に生まれ、日本の歴史に名を刻んだ偉人たち。その功績を讃え、秋田では、石碑や銅像、記念館などが作られています。

### Taro Shoji 東海林太郎

(1898~1972)

戦前を代表する流行歌手。ロイド眼鏡に燕尾服姿、つねに直立不動で歌うのがトレードマークで、代表歌に「赤城の子守唄」「旅笠道中」などがあり、第1回紅白歌合戦に出場、紫綬褒章も受賞しています。秋田市にある東海林の銅像からはその歌声が流れます。



### Asutane Hirata 平田篤胤

(1776~1843)

江戸時代の国学者・神道家。儒教や仏教の影響を受ける以前の日本民族の精神に立ち返ろうという「復古神道」を唱えました。「なせば成る、なさねば成らぬ何ごと、ならぬは人のなさぬなりけり」の言葉も有名です。



### Naotake Odano 小田野直武

(1750~1780)

江戸時代の画家。平賀源内から洋画を学び、秋田蘭画を確立し、『解体新書』の図を描いたことで名声を得ます。重要文化財の「東観山不忍池図」など、小田野の代表作は、秋田県内の美術館で見ることができます。



### Nobu Shirase 白瀬矗

(1861~1946)

日本初の南極探検家。にかほ市の寺に生まれましたが極地探検を志し軍人となりました。度重なる挑戦の結果、南極に到達はできませんでしたが、白瀬らが日章旗を立てた場所は、大和雪原と命名されています。現在、にかほ市には「白瀬南極探検隊記念館」があります。



### Tamezou Narita 成田為三

(1893~1945)

作曲家。作品は300曲以上あるとされ、童謡が多く、代表作には、「浜辺の歌」「かなりや」などがあります。故郷の北秋田市米内沢に建てられた記念館「浜辺の歌音楽館」では成田の作品を聴くことができます。



最終章

# 秋田からの 爽風、 宮崎へ。



## 宮崎へ

怒濤の秋田取材を終え、住まいのある兵庫県へと戻った僕は、11月5日、どうしても宮崎の人たちの声を聞かすにはおれず、大阪港へ向かいました。もちろん宮崎行きフェリーに乗るためです。と、その前に秋田の紀行さんに、瀬之口ヤス子さんという、宮崎県都市で理紀之助のことを広めるべく活動をされている女性を紹介していただき、お電話で明日の昼にお会いする約束をします。

船に揺られること14時間。翌6日の朝、港に到着した僕は、瀬之口さんとの待ち合わせ場所、宮崎県都市にある「かかしの里ゆぼっぱ」という温泉施設まで約1時間車を走らせます。今回撮影をお願いした鹿児島在住の友だちでカメラマンのアンデイトも合流し、やってきた約束の時間、春と秋の2回咲くという冬桜が映える青空の下、瀬之口さんは素敵な笑顔で僕たちを迎えてくれました。

実はこの瀬之口さんは『秋田からの爽風』という、石川理紀之助と、この地、かつての庄内村谷頭の物語が綴られた絵本の著者でもありました。

この本のことを僕はこの後知るのですが、ここに描かれている、決して秋田では知ることができなかった理紀之助の姿にとっても感動しました。誌面の都合もあって、ここで少し僕なりに要約して伝えさせてください。



物語は今から約230年前（1779年ごろ）の鹿児島県からはじまります。その年、桜島が噴火。居場所を失った人

たちがたどり着いた場所こそが、ここ、谷頭だったそうです。そこから120年がたった明治の中頃、作物も満足にとれない貧しい土地をなんとかしようと、用水路を作ろうとした人がいました。その人が、理紀之助を呼んだ前田正名でした。

しかしその工事には長い年月と莫大なお金がかかり、なんとか完成したときには、その資金をすべて使い果たしてしまっていました。おまけに水を使った農業をしたことがない村の人たちは、田んぼを作ることに興味をもつてくれず、正名は困りはててしまします。そんなときに思い出したのが、秋田県の親友、石川理紀之助でした。

果を出すべく、仲間とともに使命を果たそうと心をついにします。さっそく70人の村民を集め、みなさんのくらしが少しでも良くなる手伝いをしたいということ。そのためには節約して貯金をすることや、早寝早起きで勉強や仕事に精を出すことが大切だと話します。村人たちはそんな話をただただ驚いて聞いていたそうです。



正名の依頼を受けて谷頭までやってきた理紀之助。あらかじめ決めていた半年という期限のなかで、なんとか成



実際、村人たちのくらしは相当貧しく、人々は破れた着物を着て裸足で歩き、働く意欲もなく遊んでばかり。文字の読み書きなどできるはずもありませんでした。そこにきて、秋田弁と薩摩弁ではまったく言葉も通じません。秋田と同じやり方では無理だと感じた理紀之助は、指導するという気持ちを捨

て、とにかく村人にとけこみ、自分の生活や行動を見せることで気づいてもらおうと、仲間に話します。



毎朝かけ板を鳴らし、村人を起こそうとするのですが、誰も起きません。だけど理紀之助は怒ったりはせず、とにかく村を回り、行き交う人々にはこり笑って挨拶をするところからはじめました。そして谷頭に来て4日目、理紀之助は夜学を開きます。最初はたった一人しか生徒が来ませんでした。次の夜から徐々に生徒が増えていきました。



相変わらず早起きできない村の人たち。それはきっと仕事がないからだ、竹細工や藁細工の指導をし、

それを売って何銭儲かったと伝えることで、朝仕事をする人を増やしていき。さらに理紀之助はこの土地のことを知るために各家を訪ねて直に話し、そこで農具を調べ絵にしたり、地図を作ったりしました。そうするうちに、理紀之助の誠実な人柄が村人に伝わっていきます。



理紀之助が勉強を教えたのは、青年や子どもたちだけではありませんでした。村のお母さんたち向けの勉強会を何度も開き、先祖を大切にすることや、子どもの教育について、また、料理や裁縫、衛生や身だしなみ、言葉づかいなど、女性の心得についても教えたそうです。



そんな理紀之助の親切な指導が評判になり、夜学生はどんどんと増えていきました。

した。そこで理紀之助はこの地での自らの指導の集大成として、先祖の苦勞を将来に伝え、村を大切にすることを提案して「島移りの碑」を建てることを提案しました。12キロも離れた御池というところから、大きな石を切り出し、あらためて桜島から移り住んだ33戸の人たちの名前や、その頃の様子を書き残し、1902年9月16日、島移りの碑は完成します。



いよいよ理紀之助が秋田へと戻る日がやってきます。村人たちに、その志を受け継いでもらえるようにと、地道に調べた村の記録やこつこつと貯金してきた帳簿を託し、10月1日、6カ月の指導を終えた理紀之助とその仲間は村を去ります。見送りは鶴の島までと約束し、ついで来た村人200人。さらにその先、乙房に着くとそこにもおよそ100人が待っていました。



どんなに論しても帰らなかった3人の夜学生、竹森重二、村岡新之助、桜原金之助とも鹿兒島で別れを告げた後、理紀之助は九州各地を講話して回り、東京を経て、福島県での指導を終えるようやく秋田へたどり着いたそうです。そこから100年以上がたった1996年の12月、理紀之助生誕150周年を記念して、夜学を開いた場所のすぐ近くに、立派な胸像が建てられました。



### 山田のかかし笑劇団

ちょうどお昼時ということもあり、瀬之口さんは、理紀之助の胸像のすぐ傍にあるという「料亭さくら」に僕たちを連れてきてくれました。そして案内されるまま中に入ってびっくり。そこにはなんと！ 13名もの人たちが僕たちを待っていてくれました。



瀬之口さんが作った絵本に感動した岩邊八郎さんという男性が、これはお芝居にして伝えるべきだと提案し、理紀之助の物語を演劇にするべく有志の方が集まり立ち上げた『山田のかかし笑劇団』。そのメンバーの方

13名が僕たちを待っていてくれたのです。瀬之口さんには2日前にお電話したのが初めてだし、今日は平日の昼間だし、なのにこんなにも多くのみなさんが迎えてくださったことに、僕はいきなり感動してしまいます。

「サヨ婆という役をやっています、安藤サヨです。私は今、都城で農業をしています。昨日はもち米の収穫祭で、そしてあずきの収穫祭もしました。毎日が収穫祭です。あははははははっは(笑)」

と、なんとも楽しい自己紹介タイムがスタート。そもそも演劇経験などないボランティアのお母さんたちが中心となって活動されている劇団なのですが、なかには、市議会議員の方や、当時の夜学生の娘さんも。実はみなさん、僕たちがわざわざ秋田からやってきたと思ってくれていたようで、残念ながら僕もアシスタントの山口も関西だし、カメラマンにいたっては鹿児島だし、と申し訳ない気持ちになったんですが、『のんびり』の話を聞いてとても感動してくださり、理紀之助が繋いでくれたご縁をみなさんとても喜んでくださいます。



### 秋田からの爽風

本当はその場でお芝居を演じてもらいたかったくらいでしたが、そんなわけにもいかず、公演時のお話を伺っていたら、みなさんで主題歌の『秋田からの爽風』という歌を歌ってくださいることに！ ちなみにその歌詞も瀬之口さんが書かれています。

語りつがれる 北の大地から  
時空を越えて 吹き渡る  
爽風のぬくもり  
固い絆の  
今もみえるよ 島移りの碑  
明日を照らし 幸せささむ  
歩くすじ道  
目覚めたわれら

お母さんたちが一切のためらいも、ましてやてらいも何もなく、ただただ真っ直ぐ「目覚めたわれら」と歌う姿に、僕は秋田の人じゃないのに、なんだかとても誇らしい気持ちになって、目頭が熱くなりました。石川理紀之助の精神をこうやって語りついでくれている人たちが、宮崎にいることを、秋田の人たちに伝えなければと強く強く思いました。





夜学跡地からすぐのところ、竹森さんのお家がありました。玄関を開けると和昭さん手作りの竹細工がたたく音が響いていて、こんなところにも息づいている理紀之助の教えに、僕は一人嬉しい気持ちになりました。お家が上がらせてもらおうと、そこはまるで小さな資料館のようで、壁にかけられたたくさんのお父さんの写真、夜学生時代の和昭さんのお父さん、竹森重二さんが写っていました。和昭

### 竹森和昭さん

さらにそこから歩いて3分ほどのところに、夜学跡地があります。ここで開かれていた夜学の情景を想像しながら、僕は今からいよいよ宮崎の地でもっとも会いたかった人に会える幸福を噛みしめていました。その人は、竹森和昭さん。みなさん覚えていますか？ 資料館で見た『板木のひびき』というビデオのなかで、インタビューを受けていた、当時の夜学生の子息さん。何度言っても帰らなかった3人の夜学生の子息さん、竹森重二さんの息子さんです。



### 夜学生竹森重二さんの息子 竹森和昭さんのお話

竹森さん（以下敬称略）これが秋田県からこられた石川理紀之助さんのご一行ですね。うちの親父が夜学生で、これです。  
藤本 かわいらしい。  
竹森 親父は当時13歳。ここに写っている3名が鹿児島まで送って行っただけですね。そしてこれが石川理紀之助さんですね。うちの親父がですね、昭和31年に亡くなっちゃってます。それで、うちの親父が死ぬ前



### 理紀之助の胸像へ

本当に楽しかった昼食を終えて、ついに向かった理紀之助像。近くの小学生たちの登下校を見守るように、理紀之助の胸像はありました。そしてその隣には理紀之助が村の人たちと建てた島移りの碑も。

これほどまでに町に溶け込み、また愛を感じる胸像を他に僕は知りません。町の変化を優しい眼差しで見つめる理紀之助の胸像の側面に、あまり見慣れない言葉を見つけた僕は、劇団代表の岩邊八郎さんにその意味を聞いてみます。

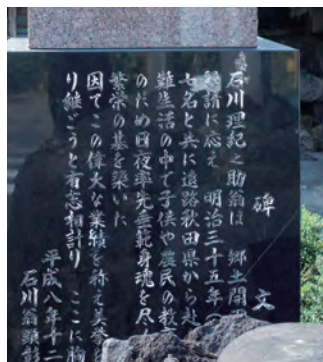
藤本 碑文にある「日夜率先垂範身魂を尽くし……」これって？

岩邊さん これは率先垂範そっせんすいはんと読むんです。人に先立って自ら行なう。一緒にやってやる。そういう生き方をずっと貫いてきた。『寝て居て人をおこすこと勿れ』って座右の銘としていろんなところに書かれているでしょ。指示や命令じゃない。そこが違うんですよ。私なりに理解すると、言

われたからやるのではなくて、喜んで進んで行なう。そこまで深い意味があると思っています。人が苦しんでいるのを見たら、損得抜きで助ける。この人はずっと地位はいらないうつて断わってるんですね。いろんな表彰とか受けても全部断わって。役職とかも断わって。そんな生き方をずっとしてる。そういう人間性のある生き方をしているから、人づくりに説得力がある。たった6カ月でものすごい影響を与えた人ですからね。子どもから大人まで全員に慕われて。

率先垂範。石川理紀之助を表わす言葉としてこれほどの確かな言葉はないと思います。

さんはそれらの写真を一つ一つ丁寧に説明してくれました。



瀬之口さん これがこの町の方言を使った「山田弁かるた」。もう山田弁も子どもたち、喋れないんです。ですからカルタにしたら面白くて、興味を持ってくれるので。小学校などでカルタとりもするんですよ。

なんと瀬之口さんもカルタを作っておられました。

僕はなんだか、今また、秋田の人たちと宮崎の人たちの気持ち繋がったような気がしたのでした。



はい、もちろんそう、りきのすけカルタです。半ば驚かしてみようと最後までとっておいた僕ですが、なんと逆に驚かされてしまいます。



【参考文献】『板木のひびき』川上富三(潟上市教育委員会)／『秋田からの爽風』瀬之口ヤス子／『伝記 石川理紀之助』佐藤正人(秋田文化出版)／『農聖 石川理紀之助の生涯』田中紀子(批評社)

に秋田に墓参りに行くと言うけど、なんで秋田に墓参りつち言うか、こっちはわからんわけです。それがあとでわかった。

藤本 なるほど。

竹森 うちの親父が石川さんの夜学生で、6カ月間お世話になつちよいから、うちの親父はそれが頭にあってんでしょね。うちの親父は60代で亡くなったから。うちのばあさんが95やったかな。ばあさんのほうが長生きしちやるんです。石川さんの島移りの碑建てるときやらです、いろんなことを、ばあさんが知つちよつとです。石川さんの言葉に経済の言葉の十四ヶ条がありますね。うちの親父は石川さんに言われたからかわかんけど、うちんとも、もうしよちゅうお金のこと言いよつたです。とにかく辛抱は余裕のあるうちにしなさいと。お金がなくなつてから辛抱はダメだと。余裕のあるうちに辛抱しなさいつち、しよちゅう言いよつたです。石川さんの教育で、そういうふう考えたのかです。それで、いろんな書類とかもありますけど、うちの親父は大事にしちよつたから。小さな家で申し訳ありませんけども、こつちで。



奥の部屋で、しまっていた掛け軸を出していただくと、そこには経済の言葉十四ヶ条の掛け軸も！

藤本 理紀之助さんはこの十四ヶ条をこの村に置いて帰られたんですね。

竹森 ええ。

藤本 こういう書があることは、お父さんの重二さんが亡くなるまでは知らなかったんですか？

竹森 はい。親父が亡くなった後にいろんな書類の箱を開けてみたんですね。真っ黒くなった箱が何個かあつとです。その中にいろんな昔の



書類が入つちよつてね。石川さんが帰つた後にですね、重二にあてた手紙なんかも入つちよつた。親父が亡くなった後にわかつたんです。

藤本 手紙もあるんですね。

竹森 まだ箱も持つちよるけど、立派な箱じゃない、真っ黒になつちよつとです。

そうして出してくれた重二さんの黒い木箱のなかには、秋田から送られてきた大量の手紙やハガキが入つていました。それらの貴重な資料を前に、竹森さんが語ってくれるお話を聞きながら僕は、この町の人たちにとって石川理紀之助は、偉人というよりも、切実に自分たちの先祖を自覚めさせてくれた恩人なのだということに気づきました。その瞬間、僕の間で「聖農」や「農業の神さま」といった言葉が、すつと消えていくのでした。

### カルタ

竹森さんのお家を出た僕は、最後にどうしても瀬之口さんに見せておきたかったものを取り出しました。

中山人形の干支の土鈴は、  
午年である2014年の年賀切手の図案にも  
使用されています。

# つくり、 つないでいく人たち

秋田を代表する2つの民芸を、  
いま、若い女性が受け継ごうとしています。  
中山人形の樋渡初美香さん。  
イタヤ細工の本庄あずささん。  
伝統ある世界に飛び込んだ彼女たち。  
そして、自身も作り手として修練しながらも、  
彼女たちを受け入れた師匠たち。  
それぞれのものづくりの奥にみえる  
「受け継ぐ」ことへの思い、に  
出会いに行きました。

取材・文＝矢吹史子 写真＝高橋希  
Text: Fumiko Yabuki Photo: Nozomi Takahashi



## 中山人形 中山人形店

冬はモノトーンの世界に包まれる秋田県において、その華やかさは救いのようにすら感じられる「中山人形」。もとは、140年前に佐賀県で始まり、岩手県を経て、横手市中山地区に伝えられたといわれています。

「中山人形店」では、千支の土鈴、ひな人形、風俗人形などの、成形、焼き上げ、色付けまで全ての行程を行ない、現在は、5代目の樋渡徹さんを、娘の初美香さんが手伝いながら制作しています。



## 樋渡初美香 さん

小さいころから、父の隣で粘土で遊んでいて、何かの時に「継ぐとすればあなたは6代目だよ」と言われたのが残っていて。いつか継ぐことは漠然と意識していました。

それまでは、なんとなくだったのが、秋田市の美術工芸短大に入ってから意識が変わっていきました。もっと勉強して将来に活かしたいと思って、陶芸コースで学んで、卒業制作では、中山人形と似ている「鑄込み」という技法を使って、カバの置物を36体作りしました。学校の先輩から、なかなか陶芸の仕事には就けないし、続かないっていう話を聞くと、こういう仕事が百何十年も続いていることに重みを感じます。いつでも継げるくらいに歳になってから、だんだんプレッシャーを感じるようになってきて。不安でなかなか腹もくれないんですけど……。

今は地元の美術館で仕事をしながら、工房を手伝っています。大学を出てすぐに工房に入ると、世の中のことを知らなすぎるのが不安で、一旦外に出たいと思って、美術館で働くことになりました。美大卒のわりには、知識が身に付いていなかったのが、今は、作家さ



んや秋田にゆかりのある作品に触れながら、勉強の毎日です。任期があと3年あるので、それまでに後を継ぐ覚悟を決められたらと思っています。子どものころから、土鈴に入れる土の玉を作ったり、素焼きの表面をヤスリで磨いたり、箱に人形を詰めたり……ほんとに単純な手伝いをしてきました。今もやれて1〜2時間程度。色付けはまだ下手なので、ヤスリがけと、最近では粘土を作る作業も手伝うようになって、それもまだ全然できないので、教わりながら作っています。

父とは普段から、美術のことや商売のことをよく話していて、母には「ほんとに気が合うね」と呆れられます（笑）。性格も似てるし。常に二人で「あれについてどう思う?」とか話しています。影響を受けたのはやっぱり父ですね。考え方はだいたい父に洗脳されていると思います（笑）。



## 5代目・初美香さんの父

### 樋渡 徹 さん

私が先代から学んだことは、忍耐と努力、我慢じゃないですかね。直接教えてもらったことは何もないんですけど、親父やじいさんが、いつもやってるのを見ていたのと、確かこういうことを言っていたなあっていうことを思い出して「じゃあこういうのかな、あなるほどな」っていうような。でも、聞いておけばよかったという後悔もあります。

色付けは代々、全員違いますね。一人一人、筆さばき、力強さとか。親父

はざっと描くし、じいさんは繊細でキレイ。私はどちらかというと細かいかな。基本はじいさんの色付けだと思ってやってるけど、結局、自分は自分なんだなというところに、最近やっとたどり着いてきました。まだへたくそかもしれないけど、自分の線を見極めれば、自分のものができてるのかなと。きつと女性のほうが、優しい色付けになるんじゃないかなと思いますね。

これからやりたいのは、新しいものではなく古いもの。後ろに下がるように感じるかもしれないけれど、古いものをわからないと前に進めないから。

「新しいキャラクターでも、売れるなら何でもいいからつくろう」じゃないかってうちには昔からの型が300以上あって、まだまだ知らないものがたくさんある。なにも新しいものをゼロから作る必要はないと思うんです。

我々は、絶滅危惧種と同じなんです。辞めちゃえばそれで終わりだから。辞めるのは簡単なんです。でも、百何十年続いているのを続けていくっていうのは、やっぱり大変です。明治、大正、昭和、平成……っていう流れがあつて、いろんな人がこの仕事にかかわってきた歴史が、この肩に乗っかっているっていうのを気付いた時点で、それが恐いですね。



それを継いでもらうってことについては、ありがたいです。だけど親だから、やっぱり先は心配ですよ。ただ、うちは初代が、樋渡ヨシっていう女性から始まっているので。娘が継ぐと、それ以来の女性が入ることになるんですよ。



## イタヤ細工 角館イタヤ工芸

白木の爽やかな色合いと規則正しい編み目に、気持ち引き締まるような印象の「イタヤ細工」。200年ほど前から受け継がれ、材料のイタヤカエデを鋭く割り、帯状に裂いたものを編んでいきます。元は農家の道具が中心でしたが、最近ではイタヤ馬・狐のような玩具や、物入れなどに移行してきています。

「角館イタヤ工芸」の本庄あずささんは13年前から、伯父の佐藤定雄さん、伯母の智香さんとともにイタヤ細工を制作しています。



## 本庄あずささん

イタヤ細工を始めたのは高校を卒業してからですが、伝統を守ろうと始めたのではなくて、たぶん結婚しないだろうから、自分で食べていける仕事をしなきゃって思ったんです。一生の仕事だと思っただけ、あんまり器用じゃないので、自分が興味あることに絞ってやっています。

小さいころから絵を描いたり、粘土で遊んだり、一人で遊ぶことが多い子どもでしたが、通っていた小学校は小さくて、私たちの学年は10人しかいなかったから、比べられたりしないで、10人みんなで育ってきたので、それがよかったのかなと思います。祖母が和裁をしていて、もくもくと常に手を動かしてないと落ち着かないような人で、その影響が強くなって思います。そのころから、伯父伯母にはかわいがってもらっていました。

イタヤを始めて13年経ちますが、扱っていく木をこなすことはまだできないし、山に行っても材料にする木の見わけ方も覚えられなくて、役に立たない……。私は失敗すると気が抜けてしまっただけで、そうすると伯父から「材料がもったいない。失敗しないよう

に常に思っただけでやらないと、全部をダメにしてしまう」って言われます。伯父の「いいもの作って、お客さんさやらねばねえがら」っていう言葉も残っていますね。ひと手間かけなくても形にはできるけど、そのひと手間が「いいもの」になるんだと思います。

それに、二人の作るものは力強くて、木が太くなるほどに加工が大変なんです。伯父伯母は、太くてもモノにするんです。細いものでなければいけないより、細いものでも、太いものでもできる職人のほうが腕がいいと言えるんじゃないかと。伯父伯母のようなやり方を絶やすと、イタヤ細工が弱々しいものになってしまうかもしれないし、そういう腕のある人から習ってるっていう誇りもあります。今はまだお給料をもらって習ってる分際ですけど(笑)。まずは私が食べていけるようになって、教わったことを受け継いでいかなければと思っています。



## あずささんの伯母 佐藤智香さん

13年経ってみて言えることだけど、今はありがたいなと思ってるの。この人の父親(智香さんの弟)から「あずさを頼む」って言われたときは「もう歳だし、あとはのんびりとやっっていくんだ」って断わったんだけど「じゃあのんびりやればいい、でも、あずさには教えてやってくれ」って。

あずさは、習いに来てるという気持ちもあって、私たちには絶対服従で。それが13年続いているからすばらしい。「おばちゃん、こうではないんでないが?」っていうのが、今やっと、ちらりちらりと出てきている。

あずさはあまりにも器用でね。きちっと1ミリも狂わないように編む。私はバサバサバサッと、穴が空こうと関係なく編むから。この人のように、やってみたくも思ってもできないもの。そういうセンスの良い手を持っている。うわっ! というようなものを作るし。悔しさもあるよ。

何人も後継者づくりで置いたけど、みんな6カ月、1年で辞めた……なんというか、なかなか続かないんです。だから、あずさのその根性はす



ごいと思う。ここでちょっとごまかしで……っていうかんじだったら長続きはしないでしょうけど、こういう性格だから。

もうあずさはなんでもやれる。私は頼りにしてるから、ほんとに一人前になるように、どんどんやらせたいのよ。でもなかなかこの人(夫・定雄さん)がダメで。間違ったりすれば、どれどれよこせて自分でやってみよう。それはダメなんだって、いつも喧嘩(笑)。私が出たのは、この人を後継者にしたんだから、一生かけて、製品にすることを教える義務があると思うの。農業が機械化になって売れなくなったときも、震災のときも、くじけそうになったけれど、乗り越えてやってきたの。これを辞めたら、あとは何にもないでしょ?

自分の仕事に誇りを持たないでなんとするって。ほんとにそれが支えてきた。イタヤはここでしかできない。いんだもの。ここまでできたから、最後まで全うして教えていかなきゃと思っ



# 詩 修

## 詩人が描く池田修三の言葉③ 服部みれい

池田修三の版画に寄せた、詩人たちの書き下ろし作品



「虹」1977年

わたし、いくつもあり

わたし、いくつもあり

あるいて、いくつもあり

いつのまにか、いくつもあり

まえへと、すすんで

いくつもあり

わたし、いくつもあり

そうっと、いくつもあり

ひとりでも、いくつもあり

じぶんの、あしで

いくつもあり

うしろめたさは

もうないわ

ちよっぴり、じかんは

かかったけれど

わたし、わたしをゆるしたの

あい、だけ、みつめて

いくつもあり

### 服部みれい

文筆家、『mumur magazine』編集長、詩人。あたらしい時代を生きるためのホリスティックな知恵、あたらしい意識について発信を続ける。エッセイの執筆、編集活動のほか、詩の創作や朗読も行っている。2011年に自費出版で詩集『甘い、甘い、甘くて甘い』を、2013年に『だからもう、はい、すてきですわ』(ナナロク社)を発売。岐阜県出身。

### 池田修三

1922年秋田県にかほ市象洞町生まれ。版画家。秋田県内の高等学校美術科教諭を退職後、1955年に上京し版画に専念する。主テーマは子どもたちの情景で、晩年は風景画も手がける。作品は企業カレンダーや銀行の通帳、「広報さかた」の表紙などにも使われる。2004年82歳で死去。

樋渡初美香さん、本庄あずささん。ともに印象的だったのが、自分の速度を大切にしていることでした。ゆっくりとしたペースにも見えますが、他所と比較するのではなく、まずは自分ができることをやる、学べることを喜ぶ。それがあたり前に備わっている彼女たちからは、ゆるぎないものを感じます。そして、師匠たちからは、世襲ならではの厳しさよりも、彼女たちの成長を見守り、ともにものづくりをしようという、たっぷりとした懐の深さが見えました。

お互いに、伝統を守っていくことに不安はありません。しかし、迷えばこそ、実直なものづくりに立ち返り、やがてそれを心の強さにしてきたのだと思います。

午の土鈴とイタヤ馬。それぞれの馬のモチーフは、大らかで力強い師匠の伴走のもと、確かに進んでいく、彼女たちのようにも感じられました。

中山人形店

秋田県横手市駅前町5-167

TEL 0182-32-1560

角館イタヤ芸

秋田県仙北市角館町雲外荒屋敷182-7

TEL 0187-55-4367





### 航空

- 東京(羽田)⇄秋田 ANA/JAL 65分(ANA)、70分(JAL)
- 大阪(伊丹)⇄秋田 ANA/JAL 80分(JAL)、90分(ANA)
- 札幌(新千歳)⇄秋田 ANA/JAL 55分(JAL)、65分(ANA)
- 名古屋(中部国際空港)⇄秋田 ANA 85分
- [リムジンバス] 秋田空港～秋田駅西口(約35分)

- 東京(羽田)⇄大館能代 ANA 70分
- [リムジンバス] 大館能代空港～大館市内(約55分)  
大館能代空港～北秋田市(鷹巣)(約15分)
- <ANA> 0570-029-222 <JAL> 0570-025-071



### 新日本海フェリー

- 北行** 敦賀(10:00)⇄新潟(22:30)⇄秋田(翌5:50)⇄  
苫小牧東(17:20)
- 南行** 苫小牧東(19:30)⇄秋田(翌7:45)⇄  
新潟(15:30)⇄敦賀(翌5:30)

●秋田港から秋田市街へは車で約30分。  
(秋田中央交通バスのご利用も可能)  
<秋田フェリーターミナル> 018-880-2600  
運行スケジュールは必ずお問合せください。

#### 藤本流 のんびり飛行機の旅

車で丸一日かけて秋田へ行くことも多い僕にとって、伊丹空港から秋田空港までたったの80分。って、まるでワープ。しかも早割の安い航空券使ったら、大阪-東京の新幹線代と変わらない安さ! 関西から意外に行きやすいのです。



### 高速バス

- 東京⇄秋田 8時間30分(フローラ号)
- 仙台⇄秋田 3時間35分(仙秋号)
- 横浜⇄秋田 9時間40分(ドリーム秋田・横浜号)

<秋田中央交通(フローラ号・仙秋号)> 018-823-4890  
<JRバス東北秋田支店(ドリーム秋田・横浜号)> 018-862-9461  
●秋田市以外の市町村を往復する便も複数あります。



### 自動車

- 仙台⇄秋田 約3時間30分
- 東京⇄秋田 約7時間30分

<日本道路交通情報センター(秋田センター)>  
050-3369-6605

## 他県から秋田へのアクセス

### 秋田新幹線 こまち/スーパーこまち



- 東京⇄秋田  
こまち:約3時間50分  
スーパーこまち:約3時間45分

#### 仙台⇄秋田 2時間30分

<JR東日本テレフォンセンター>  
050-2016-1600

#### 寝台特急あけぼの



- 上野⇄秋田 9時間35分
- <JR東日本テレフォンセンター>  
050-2016-1600

#### 浅田流 のんびりあけぼのの旅

寝台列車の「あけぼの」は、いきなり僕にとってのナンバーワンの乗り物になりました。あけぼののベッドの上は夜景を望む特等席。東京～秋田を結ぶ風景がゆったりと流れてゆきます。部屋の電気を消してずーっと風景を見ているのが楽しくて、眠るのを忘れてしまうほど。



## non-biri akita access map

### 大館市

P44～秋田犬会館

- 【電車】**  
秋田駅 | JR奥羽本線(1時間51分)  
大館駅 | タクシー(15分)  
秋田犬会館 | (1時間10分)
- 【自動車】**  
※高速道路利用(2時間35分)  
秋田駅 | (10分)  
秋田中央IC | (1時間15分)  
二ツ井白神IC | (1時間10分)  
秋田犬会館

秋田犬会館  
秋田県大館市三ノ丸13-1  
TEL 0186-42-2502

### 湯上市

P4～湯上市郷土文化保存伝習館

(石川理紀之助翁資料館)

- 【電車】**  
秋田駅 | JR奥羽本線(20分)  
大久保駅 | タクシー(15分)  
湯上市郷土文化保存伝習館

湯上市郷土文化保存伝習館  
秋田県湯上市 昭和豊川山田家の上63  
TEL 018-877-6919

### 湯沢市

P49～小安峡

- 【電車】**  
秋田駅 | JR奥羽本線(1時間35分)  
湯沢駅 | バス 羽後交通(1時間)  
小安峡

**【自動車】**  
※高速道路利用(2時間10分)  
秋田駅 | (10分)  
秋田中央IC | (1時間5分)  
湯沢IC | (55分)  
小安峡  
秋田県湯沢市皆瀬  
TEL 0183-46-2111(湯沢市役所皆瀬庁舎皆瀬総合支所)



2013年12月16日発行

STAFF

編集長  
藤本智士 (Re:S)

編集  
矢吹史子 (noon design box)  
田宮 慎 (casane tsumugu)  
笹尾千草 (cocolaboratory)  
山口はるか (Re:S)

アートディレクション  
堀口 努 (underson)

デザイン  
澁谷和之 (澁谷デザイン事務所)

写真  
浅田政志  
鍵岡龍門  
船橋陽馬  
安藤アンディ  
高橋 希 (オジモンカメラ)

題字・イラストレーション  
スタタカミン

似顔絵  
田淵志織

動画  
近藤康洋 (mel digital co.,ltd)

プロデューサー  
鏡 啓記 (NPO 法人あきた地域資源ネットワーク)

発行  
秋田県  
(観光文化スポーツ部観光戦略イメージアップ推進室  
Tel: 018-860-1073)

編集  
あきたびじょん企画室 のんびり編集部  
〒011-0945 秋田市土崎港西 3-9-15-303  
Tel: 018-816-0610  
Fax: 018-816-0611  
Mail: info@non-biri.net

印刷・製本  
秋田活版印刷株式会社

※乱丁・落丁はお取り替えます。  
※本紙内容の無断転記、記載、複写はご遠慮ください。  
※本紙データは2013年12月10日現在の情報です。  
あらかじめご了承ください。  
※本紙は「あきたびじょん」コミュニケーション媒体企画制作業務 委託業務で制作いたしました。  
©nonbiri all rights reserved.

next issue  
次号2014年3月発行予定

のんびり公式ウェブサイト

http://non-biri.net

裏表紙

MOTOKO  
×  
横手市増田町



旬菜みそ茶屋 くらを (鈴木百合子さん)  
横手市増田町増田字中町64  
電話:0182-45-3710

「崑助味噌醸造元 羽場こうじ店」の鈴木雅秀さん百合子さんご夫婦。使われていなかった元酒蔵を改装し、この11月に茶屋「旬菜みそ茶屋 くらを」をオープン。増田では江戸から昭和にかけて、内装に贅を尽くした御殿のような内蔵が建てられた。以来よそ者が足を踏み入れることはなかったが、約1世紀の時を経て地元アマチュア写真家によって「発見」され、ついに日の目を見る。固く閉ざされていた扉は大きく開放され、今や人が集まる「場」へと変貌しつつある。

写真: MOTOKO (大嶋素子)

1966年、大阪生まれ。キャリアをスタートしたときからテーマは一貫して「自然と人間」。すべての「出会い」から生まれる奇跡を撮り続けたい。2007年より滋賀の農村を舞台にした「田園ドリーム」をスタート。以来自然とともに生きる人々を精力的に撮り続ける。写真はもともと世の中の役にたてるはず、と問い続け、「写真でできること」の可能性を追求している。

プレゼント No.1

『のんびり』3号でご紹介した木版画家、池田修三の作品集

池田修三 木版画集 『センチメンタルの青い旗』

藤本智士・編著 / 発行: ナナロク社



3名様

プレゼント プレゼントの応募は終了いたしました

秋田のお馬セット

p54へに登場した秋田の民芸品、中山人形とイタヤ細工のセット



3名様

のんびり公式ウェブサイトからのご応募の場合 <http://non-biri.net>

ハガキでご応募の場合

- ①郵便番号、住所、氏名、年齢、職業、電話番号、メールアドレス ②本誌の入手先
- ③今後とりあげてほしい話題 ④今号で面白かった特集(複数回答可) ⑤ご感想
- ⑥ご希望のプレゼント 以上をハガキに明記の上、ご応募ください。

宛先は  
〒011-0945 秋田市土崎港西 3-9-15-303 NPO法人 あきた地域資源ネットワーク内  
あきたびじょん企画室 のんびり編集部 行

『のんびり』をお読みいただきありがとうございます。アンケートにご協力ください。

『のんびり』は人を基軸に「あきたのほんとう」をまっすぐ伝えるマガジンです。本号への感想、今後取り上げてほしいテーマなどのご要望、ご提案を、ハガキか「のんびり公式ウェブサイト」のアンケートページからお寄せください。

抽選で『のんびり』オリジナルプレゼントをお贈りいたします。応募メ切りは2014年2月15日。当選の発表は発送をもってかえさせていただきます。

※個人情報保護法に基づき、プレゼントをお届けするためだけに利用し、その目的以外での利用はいたしません。



DISCOVER  
AKITA  
MOTOKO  
×  
横手市増田町